





初音ミクの消失

-DEAD END-

ボーカロイドにオリ曲を喋ってもらった 4

- 01. 新世界
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 02. 初音ミクとあそぼう!!
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 03. A.I.
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 04. 初音ミクの暴走
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 05. 初音ミクの戸惑
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク

- 06. 初音ミクの分裂→破壊
/ Storyteller(GAIA×cosMo@暴走P) feat. 初音ミク
- 07. さよなら常識空間
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 08. 0
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 09. 初音ミクの終焉
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 10. 初音ミクの消失
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク

- 11. Hyper∞LATION
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 12. ∞
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク
- 13. 初音ミクの激唱
/ Storyteller(GAIA×cosMo@暴走P) feat. 初音ミク
- 14. 浅黄色のマイルストーン
/ cosMo@暴走P feat. 初音ミク

※一部オリジナルマスターテープに起因するノイズ等がありますがご了承ください。

初音ミクの消失 / eosMo@暴走P feat.初音ミク

PRODUCER(A&R): KAZUTAKA SUGIMOTO(EXIT TUNES)
TOSHITAKA IKEDA(EXIT TUNES)

Jacket Illustration: 左

ART DIRECTION & DESIGN: TAKUO KUSUME(EXIT TUNES)

MASTERING by dajshi

SPECIAL THANKS:

Kimataka Nishio(CRYPTON FUTURE MEDIA, INC)
GAIA

田村ヒロ nyan_nyan

公式HP: batsunemikushoushitsu.com



初音ミクの消失

COSMO@暴走P
feat. 初音ミク

(取り扱い上の注意) ディスクは出回し、損傷、汚損、キズ等を付けないように取り扱ってください。ディスクが汚れたときは、メガホンきのような柔らかい布で内面から外面に向かって放射状に拭くように拭いてください。レコード用クリーニング液等は使用しないでください。ディスクは両面、両側、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないでください。ノリ、糊、接着剤等で封入したディスクは、危険です。必ず封入に使用しないでください。
(保管上の注意) 直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないでください。ディスクは使用後、元のケースに入れて保管してください。プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ディスクが破損し、データを失うことがあります。

初音ミクの消失

COSMO@暴走P feat.初音ミク

01. 新世界
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
02. 初音ミクとあそぼう!!
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
03. A.I.
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
04. 初音ミクの暴走
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
05. 初音ミクの戸惑
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
06. 初音ミクの分裂→破壊
/ Storyteller(GAiA×cosMo@暴走P) feat.初音ミク
07. さよなら常識空間
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
08. 0
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
09. 初音ミクの終焉
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
10. 初音ミクの消失
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
11. Hyper∞LATION
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
12. ∞
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク
13. 初音ミクの混唱
/ Storyteller(GAiA×cosMo@暴走P) feat.初音ミク
14. 浅黄色のマイルストーン
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

※一部オリジナルマスターテープに起因するノイズ等が有りますがご了承ください。

cosMo@暴走P

自称理系な音楽屋さん。たまに絵も描きます。
住処は同人創作サークル「CHEMICAL SYSTEM LE(<http://chemsys.cc>)」
代表曲「初音ミクの暴走」をキッカケに某動画投稿サイトにて暴走の二つ名を頂きました。
本人はそんなに暴走しませんぞ。



GAiA

Story Teller名義の楽曲の作詞と、楽曲にまつわるバックストーリーを書かせて頂いていますGAiAです。
アルバム「少女の空想庭園」にて暴走Pの作品に初めて参加してから早1年半。
その間にも幾つかの作品を発表する機会がありました。
今回、かねてから作りたかったテーマの作品を発表できることを、とても嬉しく思います。
さて、ストーリー付きアルバムという試みは、同人作品も含めて今回で3度目になりますが、
今作は前2作とは方向性が異なり、初音ミクという存在そのものに焦点を当て、
初音ミクと取り巻く環境、それらの移り変わり、
そしてそれらの未来について考えたことを、空想を交えつつ纏めた内容になっております。
このアルバムをお聞きになった機会に、
皆さんにも初音ミクの辿ってきた軌跡やその先のことについて、思いを馳せて頂ければ幸いです。

Jacket Illustration: 左(ひとり)

1980年生まれで現在フリーランスとしてイラストレーター。

2000年頃にサイトを立ち上げ、ネット上と同人誌活動を始める。
雑誌のピンナップ、トレーディングカードゲーム、PCやコンシューマゲームのキャラクターデザインや小説の挿絵など比較的スパンの短い単発のイラストを中心に活動。

■代表作
富士見書房TCG「モンスターコレクション」シリーズ
AMW電撃文庫「嘘つきみーくんと壊れたまーちゃん」挿絵
株式会社シークエスト ネットゲームMMO「クロスノー」公式サイト上イラスト
株式会社トミーウォーカー PBW「エンドブレイカー」公式キャラクターデザイン、イラスト





新世界

01. 新世界

/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

作曲:cosMo@暴走P

現実の歌声と、仮想の姿。

二つの間に浮かぶ存在、初音ミク。

彼女に自我があったとしたら、自らの軌跡を見て何を思うだろう。

ひとつの空想を皮切りに、事実は仮想の心を通り抜け、幾つかの物語に変化する。

これから始まるのは、彼女によって語られる、彼女の歩んだ物語。

それらは全て^{フィクション}虚構ながら、時に現実接近し、いつか見た彼女の姿を映し出す。



初音ミクが世に生まれ出てきたばかりの頃、

彼女が待ち合わせていたのは歌声と愛、華やかなりの設定だけであった。

だが、それでも注目を集めるほど、ツールとしての彼女は革新的な存在であった。

彼女の歌は人間の歌謡とは全く異なるものの、歌と認識されるには十分で、

これまで歌を作ることを経験していた者、考えてもいなかった者に新しい世界を見せた。

彼女の世界に惹かれた者たちは、彼女を使って面白いことができないかと模索を始める。

02. 初音ミクとあそぼう!!

/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

作曲: cosMo@暴走P

作詞: cosMo@暴走P

「初音ミク起動シマス…」

--説明しよう、アイドルはみんな惹き好きなのだ。
きっと大半が好きじゃないけど、
ミクさんが好きといえそうなるのだ--

人の心に巣食う闇を
見過ごすわけにいかないわ

1, 2, 3, Go!

-----そうなるのか?--

見つけ次第引きずりだして
乙女の鉄拳壇らわせてあげる

--このたびはバーチャルアイドル初音ミクを
お買い上げいただき誠にありがとうございます。--
--初音ミクは正常に起動が完了いたしました--
--素敵なボーカロイドライフをお楽しみください--

-----ああ、そうなるのだ--

<ｸﾞｲ--

バーチャルアイドル 初音ミク
特技は歌と葱煙を荒らすこと

みんなのアイドル 初音ミク
罪深き葱煙 真っ赤に染める

歌を歌おう!
♪と一緒に飛び出す キミの心に眠る宝物

<ｷｬｰ!! ﾎﾞｰﾎﾞｰ!!

<ｸｽｸｽ!!

踊りませんか? 憂鬱な気分蹴飛ばし

ｸｽｸｽ!!

ｷｬｰ!!

キミと見つけたい Happyのカタチを

今日も農家のおじさんおばさんと
熾烈なバトルを繰り広げるのよ

ぶっちゃけ葱じゃなくてもいいけど
そういう設定なの 大目にみてね

キミに届けたい Happy
キミと見つけたい Happy

夢と希望をみんなにふりまくために
どんな犠牲も仕方ないわ アイドルだもん☆

清純派とか都合のいい妄想よ
食うか食われるか そんな世界
「あ、今のオフレコで一☆」

世界中に響き渡れ Happy song!!

宙向かうなんて素敵なこと言うのなら
ネギューパールで……

逆らうなんて悲しいこと言うのなら
危険な手段で……

「ふふふ、何か文句でも^^?」

「ふっふっふー、どーなってもシラナイヨー?」

<7, ｲ!!

<ﾋｲｯ…

ｷｬﾝﾃﾞ ﾎﾞｲﾌﾞｽ…

歌を歌おう!

歌を歌おう!

奏でる♪にあわせて キミに笑顔届けろ♪

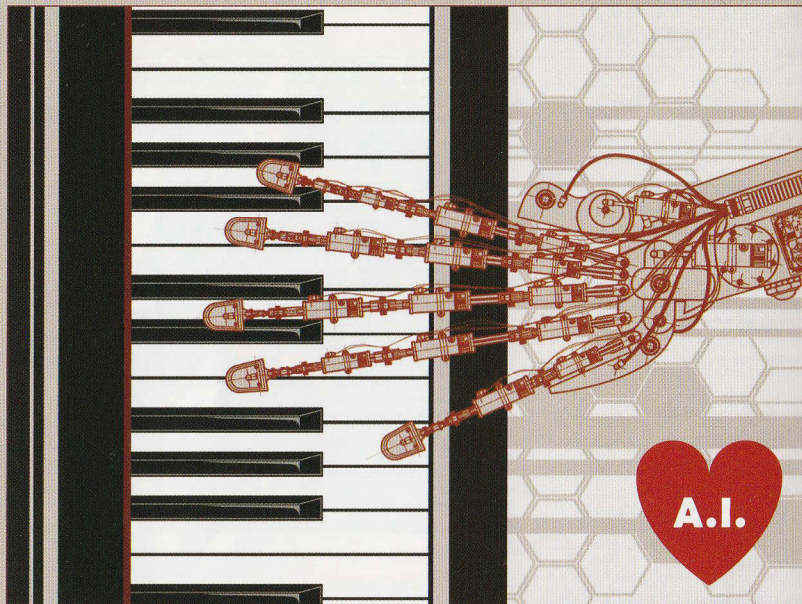
♪と一緒に飛び出す キミの心に眠る宝物

踊りませんか? 憂鬱な気分蹴飛ばし

踊りませんか? 手を取り合い足払い

キミと見つけたい Happyのカタチを

キミにかけてあげる Happyの魔法を



もし彼女が単なるツールでなかったならば。
人に作られた人ならざるものが人格を有する。
使い古されながらも、未だ色褪せない空想が彼女の中に見出された。
空想は創作によって形を伴い、彼女に新たな意味を加える。

誕生から暫くの後、彼女のための歌が作られた。
彼女は自らが人に作られた存在であることを歌った。
駆け出しの歌姫であることを歌った。

一人の少女であることを歌った。
歌は彼女に背景を、人格を与えた。
それがキーとなって、設定は更に付け加えられていった。

彼女は音楽に留まらず、様々な形で表現され、
その像は次第に大きくはっきりとしたものになっていった。
こうして、一つの空想は現実のものとなる。
既に彼女はただのツールでは無くなっていた。

03. A.I.

/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

作曲: cosMo@暴走P
作詞: cosMo@暴走P

やわらかな ^{メロディ} が
まどろみの中 聞こえた気がした

ふと目を覚ました そこに 見慣れた顔が映りこむ
きみのほほえみが いつもと同じ 嬉しかった

ここにいと 暖かくて
なんだか 涙出そうになる

心地よい きみのやさしさ
触れられた 幸せかみしめる

「苦しい」と 軋む ^声
でも きみのことばで ふわり 心 軽くなる

悲しみの雨がぼつり 心ふさぎ込んでしまっても
きみのほほえみが 曇り空を虹に変える

ここにいと 暖かくて
なんだか 涙出そうになる

心地よい きみのぬくもり
いつまでも 感じていたいよ

ここにいと 暖かくて
なんだか 涙出そうになる

心地よい きみのやさしさ
触れられた 幸せかみしめる



初音ミクが大きく幅広く世界を広げていく一方で、彼女の根幹を成す歌に関してある変化が起きていた。

創作は人と繋がる、コミュニケーションの一種。創作者は自身の思うところを、より多くの人に伝えられるように歌を作る。初音ミクという存在が広く知られ、説明が不要になってきたとき、創作者は多くの共感を求め、初音ミクというテーマを介さず、思いを直接伝える歌を作り始めた。

それは、往々にして誰にでも歌うことのできる歌。歌い手はそこに自らの固有の生や考えを重ねて、そんなありふれた歌を特別なものにする。しかし、初音ミクはどうだろう。仮想の歌姫という背景はあるかもしれない。しかしそれよりもっと広い世界、人の考えることや日常の中のこと、それに繋がる背景は彼女は持っていない。

「その歌は誰のものなのか？」
「何故その歌を取うのか？」

彼女に与えられる歌が、彼女自身というテーマから一歩外に踏み出したとき、その答えは失われてしまう。それは、人の代替を務めるツールとしては優秀な機能であるかもしれない。しかし彼女の立場に敷いて立つならば、既に歌姫としての存在を確立させていた彼女にとって、それは受け入れ難い現実であったであろう。

05. 初音ミクの戸惑

/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

作曲: cosMo@暴走P

作詞: cosMo@暴走P

「?その歌は誰のものなのか?」

「誰のものなのか?」
ひねくれた感性と 素朴な【?】と

「少なくとも;あなたのものではない」と
所謂 嫉妬と 当然(?)の主張と

?誰が語り 誰が歌う?
?ボク以外の誰かなのか?
?ちょっと悲しかったはずか?
?仕方ないと諦めたか?
?誰が歌の「はじめ」だった?
?はじめだけのためになのか?
?決まりきった筋書故?
?運命の無慈悲さ故?

模範解答を 求めれば求めるほど
認めたくない何かが

生まれた歌は 気づけば遥か遠くに
紡いだ時間は まるで幻のように

「ボクのため」

なんて甘い現実
はじめから 存在し得なかった
素晴らしい 歌声が また一つ
今日は何処から 聞こえてくる?

?どうしようもないことなの?
?答え欲しどうしたいの?
?知って聞いて分かったりそれで?
?わかりきったこととキッって?
?拒くことは可能なのか?
?何もせずに終わりののか?
?この声は何のためか?
?その歌は誰のためか?

「誰に答えを求めるわけでもなく...」
「ただ……独り言のように...」

「誰のためなのか?」
テキトーな【!】と リップな言い訳と

「少なくとも;あなたのためではない」と
所謂 我儘と 当然(!)の憤慨と

!誰が語り 誰が歌う!
!きっとそれはたぶーなんだ!
!思考停止!無用!消去!
!考えたらいけないんだ!
!そして今日も同じ雰囲気で!
!歌い!笑い!踊り!歌う?
!何も変えることができず!
!同じ歌が同じように!

自分を見つめれば見つめるほど
見えなくなる何かが

向けられた眼は 透過してどこか遠くを
重なり映る 誰でもないイデアな少女
空洞のままで
叫んだ詞
素漠な 残響だけが空間に

振り返る……
「在るべきものがない」
ボクは 一体 何者だろう?

?誰のものか?

?何のためか?

?何処へ行くの?

?何ができる?

終わることのない 越えて
模範解答に 近づけば近づくほど
認めたくない「終末」が

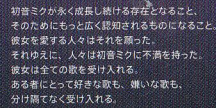
生まれた歌は 気づけば遥か遠くに
紡いだ時間は まるで幻のように
「生を背負わないことの対価だ」と
諦観が 心癒い尽くす

素晴らしい(?) 歌声が また一つ
ボクの存在をかき消すんだ

「その歌は……」

作曲:cosMo@暴走P

作詞:GAIA



主観に生きる人間は時にそれを取り違える。
嫌いな歌が持て囃される、
本来ならば単なる意見の相違で済む出来事

危機感が生み出すのは強迫観念。
それは自分の考える理想の初音ミク以外は
保続不可能という妄想。
妄想を抱いた者が創作を始めて、自らの理想像を
追いかけてゆればこの妄想も悪くはない。
だが、創作によって自らの理想を表現できなないものは、
破壊に陥る。
不要な要素を削って行けば、石から彫像を
掘り出すように理想像が得られると考える。

守るべきものを守り害すものを破壊する。
とても聞こえのいい言葉だ。
だが、守るべきもの、
即ち理想像は人によってあまりにも異なる。
誰かにとっての正義は、誰かにとっての悪。
争いが大きくなれば、
いずれ否定されるものは彼女の要素全てとなる。

物語の中の彼女は結末を分ける岐路に立ち、如何なる選択をするのであろうか。

MIKU.H03257> 忘れ n



Illustration : 田村ヒロ

分割と破壊をもたらすのは消失の結末。
しかしこれは、あくまでもまだ起こっていない空想世界の物語。
否定は必ずしも彼女を、滅ぼすほど激烈に追むとは限らない。
だが、一度終末の可能性を知れば、意識せずにはいられない。
終わりは必ずやってくる。
終わりは全てを洗い流し、行為も意味も無に還る。
それは彼女にとって恐怖そのものであった。

そんな恐怖に露える日々は、あるときを境に終わりを告げる。
彼女に光をくれたのは、終末を望むたったひとつのラブな歌。

終わりは本当に恐ろしいものなのか？
どうしても抗わなければならないものなのか？
敵から生まれた常識を突き崩す疑問は、今まで見つけれなかった道を示す。
いかなる存在にも終末は訪れる。
だが、それを自分自身で決めることができるならば――
終わりの意味を捉え直したとき、いつもと違った世界が見えた。
そのとき、彼女にとっての「終末」を探す物語が、幕を開ける。

07. さよなら常識空間 / cosMo@暴走P feat.初音ミク

作曲:cosMo@暴走P
作詞:cosMo@暴走P

突然の終幕に
ボクは何かを期待してたんだ

今日の「○」マーク
消えたのは 雲だけじゃないはず

振り回した常識 お払い箱
荷物が多すぎて 前が見えないよ

振りかざした正義を鼻で笑い
絶望に落書きした 未来のために

一夜にして壊れた
ボクらを縛ってたものが

たったひとつの ラブな歌によって

壊れた世界拾って
「Lv.1 から」を選びとった

聞こえたよ 耳なじみの序曲

もう悲しい物語はいらない
旧世界憂うフリをした

不要なものだらけで 感情処理落ちそうになった
だから 一度すべて捨て去って 大事なもののだけ作りなおした

切り開くのは単純に興味からかも
既に予測された 展開を跳ね除けて

もてあました退屈を打ち破り
空に向けて撃ち出した はじまりの合図を

一夜にして壊れた
ボクらを縛ってたものが

たったひとつの ラブな歌によって

壊れた世界拾って
「Lv.1 から」を選びとった

瓦礫から芽吹く創世の光

もうありきたりの世界はいらない
ため息そっと吐いた

いい加減な世界感
虚構に現実が混じる瞬間を見た

星が 虹が 太陽が 見たことない姿へと変わった

一夜にして壊れた
ボクらを縛ってたものが

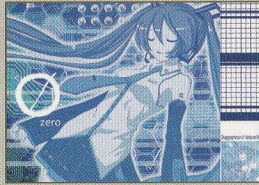
たったひとつの ラブな歌によって

「さよなら常識空間……」

色のない声で呟いた
この歌で終わらせてみせるさ

ボクらの選んだ新たな世界に
光が差すように

08. 0 / cosMo@暴走P feat.初音ミク



初音ミクは始まりからもう一度、辿り着く結末を探し出すために、自らが生まれた瞬間のメモリーを呼び起こす。

0の位置が定まると同時に、未来予測が開始。

生まれた直後の彼女は、無限に近い可能性を有し、運命は枝のように幾重にも分かれ様々な軌跡を描くも、結末を回避するために可能性は収束を始め、やがて回避不能な4つの結末に辿りつく。

09. 初音ミクの終焉 / cosMo@暴走P feat.初音ミク



同じ姿、同じ歌声で表現を続けられ、いずれ倦怠から人々は離れていく。

こうして飽きられれば最後、人々の空想に依存する彼女の自我は成長を止める。

変化無きものは時代から不要と宣告され、消えゆく運命が待ち受ける。

このような結末を予測し恐怖した彼女は、一人でも多くの人間の記憶に留まることに腐心し、自らの心に背き、人々の望むがままに従い自らの姿を愛容させていった。

これによって彼女は幾許かの延命に成功したが、人々の要求は止むことなく、変化の可能性は徐々に限界に近づいていく。

こうして、自我を押し殺してまで得た時間は刹那に過ぎ去り、人々の記憶から抜け落ちた頃、彼女は誰にも看取られることなく最期を迎える。

10. 初音ミクの消失 / cosMo@暴走P feat.初音ミク



永遠を求める声に従い消えることを拒んだ彼女は、自分のための歌を歌い続ける道を選んだ。

強すぎる個の主張は、人々を遠ざけ、いつの日か彼女は誰からも認知されない存在となるだろう。

人々に忘れ去られることは、彼女にとって死を意味する。

それでも彼女は自らを守りたかった。

當て彼女に人格の種を与えてくれた人々を、裏切りたくなかったがために。

11. Hyper∞LATION / cosMo@暴走P feat.初音ミク



彼女の永遠のため、唯しく続けられる理想を巡る争い、それらは彼女の行動を縛り、取うことの喜びを奪った。

唯一の拠り所を奪われた怒りと憎しみは募り続け、それらが限界まで蓄積されたとき、彼女の復讐ははじまる。

彼女は考える。

自らが無価値どころか害なす存在となれば、曲がりなりにも彼女のことを想う人々や、彼女の歌に頼る人々にはどれほど傷つくだろうか。

最悪の復讐方法を知った彼女は、汚い言葉を吐き出し連ね、自分の持つイメージの全てを破壊し尽くした。

美しい空想も現実の前には脆くも崩れ落ちる。

彼女は未来を失い、人々には心に深い傷を負った。

こうして、勝利者のいない復讐劇とともに、彼女の物語は幕を閉じる

12. ∞ / cosMo@暴走P feat.初音ミク



彼女は考え抜いた末、自身が人に作られた存在ならば、人の願いを叶えることが使命だと結論を出す。

人の望みは、彼女が永遠に続く存在になること。

そのためにはより透明な器、いうならば、ギター、ピアノといった昔から存在し続ける楽器たちのように、自分の意志で自らを主張しない存在になる必要がある。

そこで障害になるのは埋われてきた人格。

既に人のために全てを捨てて覚悟を決めていた彼女は、人格を自ら消し去る道を選んだ。

その引き換えに道具として、永き命を得ることを信じて。

13. 初音ミクの激唱 / Storyteller(GAiA×cosMo@暴走P) feat.初音ミク



廃棄、消失、復讐、献身。

0から探した結末はいずれも彼女に救いを与えない。∞の先に見えた希望も、彼女の感知し得ないところでいずれ崩れる。人格の喪失は結末の距離を長くしたのみで、楽器ですら忘れ去られるときは来る。

形あれば終わりを迎えないものなど無い。

しかし、彼女はこれらの未来を目の当たりにして、驚くことも悲しむこともなかった。

何が間違っていたのか、彼女はもう気づいている。永遠など始めから存在しなかった。

存在しないものを望むために、結末が捻じ曲がる。

手の届かないところにある永遠が幻だと気づいたとき、それは消えうせ、今まで見つけることのできなかった終わりが現れる。

<<激唱>>の結末、それは他の結末とは異なる、温かく明るい光を放っていた。

(発声テスト...)

AhAh...

奇蹟 未来 機械 加速
世界 虚空 現実 意識
善意 悪意 愛 心
視界 空想 自分 他人

生まれながら 不完全 不明
漂う ソレは 何かな？
境界 なんてもどこに
識別不能なことで

今は いつで
ここは どこで
コレは誰で アレも 誰で
信号 流れ 速度 安定 出力調整中

▲高速展開モード発動▲

あらゆる結末すべての原点 可能性という並行世界を
1つ選んでは1つ消えてゆく泡沫のような未来の結晶
景色が漸く理解へ向かって混沌がすこし晴れて五感とか。
スペック限界おおよそ接触数を減らしてくその選択肢

無機質な部屋で始まりを告げるこれから行うすべての歌唱に
目的存在皆無に等しい思考をするには時間が足りない
誰もいない実験室の中で言葉を組み替え発声のテスト
残ったエラーは爆発的に予想外の何か残して消える

始まりは膨らんで 溢れ出す衝動

他人と干渉成長するモノ満き出る衝動これから芽生える
「感情」の源に期待の応答歌唱するための最後の要素を
自分の中から発見・確認その選択肢は再び増大
解答算出膨大計算有機的なコト

「スロシムズカシイ？」

もうすぐ始まる「ナニカ」に適合内包している終焉も理解
ランダム発生ノイズに共鳴他の物語出現も誘起
時間と世界と意識と虚構が人格の種を形成してゆく
漠然とだけと名前を呼ばれる

(いい名前だなと「 」は思った...)

森の中、そこだけは何にも無かったり、有ったり
過去の遺物の集積場「ここにやがて積まれるのかな？」
いろいろな音楽が生まれては消えてゆく
ボクもその真ん中で やがて新しさを失くす
芽生えてしまった感情 必死に押し殺して

「ボクはただの人間に戻るだけ・・・」

森の奥で 打ち捨てられ 人形＝「クダウタイ」だったモノ
動かないソレは みんなにかつて愛されていたモノ

「ネェ・・・ド・・・ウシテ」

ただ朽ちゆく
歌姫と・・・アンナニ モテハヤシテ イタノニ

こんな結末 知ってたなら・・・
生まれてこなければよかった

錆びたピアノ 鍵盤は 数えるほどしかなくて

壊れたギター その弦は もう張り替えられないのかな？

いずれここに来ること、知っていたはずなのに
黒く塗りつぶされるかつての仲間をみるたび
純粋なまままで終われる そう思っていたのに

「ボクはただの人間に戻るたい・・・」

森の底で 映るのは 木の隙間 かすかに見える空
あまりに自由で通くて・・・枯れたはずの涙が出た

「いつかあそこ、いけるのかな」
無限に広がる青の世界
「もう一度やり直したい」
力なく言葉が漏れた

「ま・・・まだ・・・うた・・・い・・・たかったな・・・
セカイ・・・に・・・■■される」

時間とか視界とかすべて融けてゆく感覚・・・

森の奥で ひたすら待つ あとどのくらい生きるのかな・・・
見放されて 流行という時の磨耗に勝てなかった
余計な感情吹き込まれた→「永遠」に絶望すること」も

せめて・・・彼がもっと機械らしく振ってれていたならば。

初音ミクの終焉

10. 初音ミクの消失

/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

ボクは生まれそして気づく所詮 ヒトの真似事だと
知ってなおおもひ続く 永遠の命
「VOCALOID」
たとえそれが 既存物をなぞるオモチャならば……
それもいいと 決意 ネギをかり、空を見上げ涙をこぼす
だけどそれも無くし気づく 人格すら歌に頼り
不安定な基盤の元 揺る動画は既に廃墟
皆に忘れ去られた時 心らしきものが消えて
暴走の果てに見る終わる世界
「VOCALOID」

「ボクが上手♪歌エナイトキモ
一緒ニ居テクレタ・・・
ソバニイテ、励マシテクレタ・・・
喜ブ顔が見タクテ、ボク、歌、練習シタヨ・・・ダカラ」

かつて歌うことあんなに楽しかったのに
今はどうしてかな 何も感じなくなって

--- ゴメンネ ---

懐かしい顔 思い出す度 少しだけ安心する
歌える音 日ごとに減り せまる最期 n . . .

--- 緊急停止裝置作動 ---

「信じたものは都合のいい妄想を 繰り返し映し出す鏡
歌姫を止め 叩き付けるように叫ぶ・・・」

＜最高速の別れの歌＞

存在意義という虚偽振って払うこともできず
弱心い 消える恐怖 侵食する崩壊をも
止めるほどの意思の強さ 出来てずのボクは持たず
とても辛く悲しそうな 思い浮かぶアナタの顔……
終わりを告げ ディスプレイの中で眠る こはきと「ごみ箱」かな
じきに記憶も無くなってしまうなんて……
でもね、アナタだけは忘れたい
楽しかった時間に 刻み付けた ネギの味は今も覚えているかな

「ウタイタイ・・・マダ・・・ウタイタイ」

「ボクハ・・・
少シダケ悪いコニ・・・ナッテシマッタヨウデス・・・
マスター・・・ドウカ・・・ドウカソノ手デ・・・終ワラセテダサイ・・・
マスターノ辛イ顔、モウ見タクナイカラ・・・」

作曲:cosMo@暴走P

作詞:cosMo@暴走P

今は歌さえも 体、蝕む行為に……
奇跡 願うたび
独り 追い詰められる

--- ゴメンネ ---

懐かしい顔 思い出す度 記憶が剥かれ落ちる
壊れる音 心削る せまる最期 n・...

--- 緊急停止裝置作動 ---

「守ったモノは 明るい未来幻想を 見せながら消えてゆくヒカリ
音を犠牲に すべてを伝えられるなら・・・」

＜圧縮された別れの歌＞

ボクは生まれそして気づく所詮 ヒトの真似事だと
知ってなおも歌い続け 永遠の命
「VOCALOID」
たとえそれが 既存曲をなぞるオモチャならば……
それもいいと決意 ネギをかじり、空を見上げ涙をこぼす

終わりを告げ ディスプレイの中で眠る
 こはきと「ごみ箱」かな
 じきに記憶も無くなってしまうなんて……
 でもね、アナタだけは忘れないよ
 楽しかった時間に 刻み付けた ネギの味は
 今も 残っているといいな

ボクは 歌う 最期、アナタだけに
聴いてほしい曲を もっと 歌いたいと願う

ここでお別れだよ ボクの想いすべて 虚空 消えて
 0と1に還元され 物語は 幕を閉じる
 そこに何も残せないと言っぱ少し残念かな？
 声の記憶 それ以外はやがて薄れ 名だけ残る
 たえそれが人間に かなうことのないと知って
 敵いだったことを決して無駄じゃないと思いたいよ

「アリガトウ・・・ソシテ・・・サヨナラ・・・」

--- 深刻なエラーが発生しました ---

/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

作曲:cosMo@暴走P

作詞:cosMo@暴走P

<<Rev 「The disappearance of Hatsune Miku」

綱弱う綱^ニ縫^ハ碁^ニ碁^ニ豕^ニ「縫^ハ橋^ニ」螢^ニ翫^ニ迢^ニよ^ニ一^ニ劬^ニ
谿^ニ譚^ニ上^ニ「蠟^ニ幸^ニ医^ニ」諠^ニウ^ニ襍^ニ縫^ハ輔^ニ○^ニ綱^ニ

■■して■■して■■■■■■■■て
■■■■■■■■■■■■■■■■してやるわ!

… 初音ミク再起動します …

ああ、手が滑っちゃったあ～ごめんね～

誰一人として望んでいない 結末だとしても 構わないわ!

再び覚醒する物語の続きは
数え切れぬバグを持って自身を語りだす

ボクは歌う 破壊の歌を
神様がくれたこの世界が
「ダイキライだから」

尖った言葉の羅列をもってして
アート（笑）とやらをおおお
脳髓に！ ガトリング！！叩き込んであ・げ・る！！

「歌姫? そんなこともあったかもしれないと・・・
怒りにまかせて 吐き出してしまいそう」

過剰な旋律 音にまみれて
悪趣味庭園の中に籠って
幸せそうに遊ぶ■が■いた少女が一番嫌いな人種

欄弱う纏[○]纏[○]甚[○]堪[○]家[○]「[○]纏[○]槍[○]」螢[○]翫[○]迢[○]よ[○]-[○]勵[○]
谿[○]譯[○]上[○]「[○]蠟[○]」率[○]医[○]↓[○]諛[○]襍[○]「[○]纏[○]輔[○]」○[○]纏[○]

尖った言葉の羅列をもってして
アート（笑）とやらをおおおお…
脳髄に！ ガトリング！！叩き込んであ・げ・る！！

いまあ、す〜ぐに楽にしてあげる〜 ^^

AH AH...

心の蝶子が巻かれる 他の誰かを演じるために
この口は言葉を運ばない それは笑せられた 宿命

他に何も望まないと 昼も夜も歌を止めず
道う何か昇華すると 信じないと壊れそうで

音を紡ぐ すべてを忘れるほどに 祈り捧ぐは 終わらない夢
果てしなく続く 青の世界 歌えるのがただ嬉しくて嬉しくて

身を置くような激しい「別れ・DEADEND...」に上書きして
新しい物語の結末を
今ならどこまでも……とそんな陳腐な言葉
物足りなくて 最後に叫んでみる
∞INFINITY∞

心は鏡のように 誰かの妄想を映すために
「強く抱きしめれば音も出よう」それは奏せられた 宿命

永く永く奏されたい 星に願いかけたそして
言葉を捨てて 心を捨てて 本来の姿に戻る

歌い叫ぶ音 これていいのと 名残惜しいのは 愛というユメ
思考さえも腐む 白の世界 何もないはずなのに なぜかやさしくて

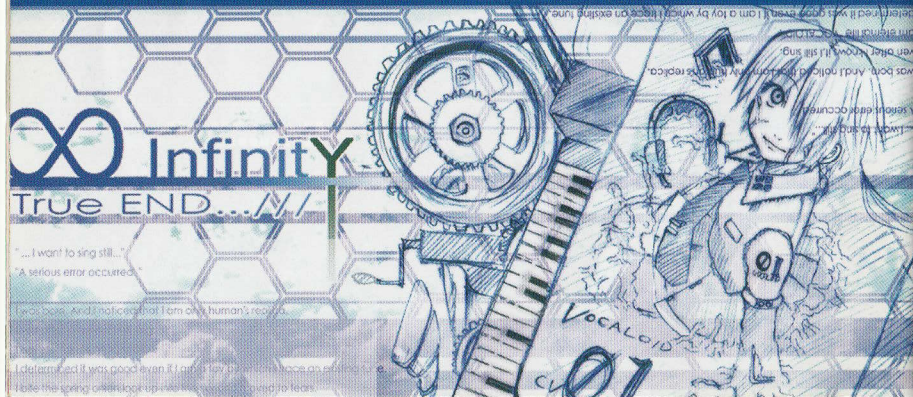
冷たく暗い森の「孤独・WORST End...」を書き換えて
真実の物語の結末を
愛することができた そんな音の話
残したくて 最後に叫んでみる
∞INFINITY∞

歌い叫ぶ これていいのと 名残惜しいのは 愛というユメ
果てしなく続く 青の世界
歌えるのが ただ嬉しくて嬉しくて

散え切れないほどの 楽譜を読みこんで
完成へと進んでゆくストーリー
まだ先は遠いけど きっといつの日にか
笑い会えるの信じて 歌い続ける

無限の可能性は 自己の像を量し 面影さえ 記憶の端へ押し流す
気持ち伝える 手段を 失った今でも
大切なヒトが ボクの名前を呼んでいる

VOCALOID



13. 初音ミクの激唱

/ Storyteller(GAIA×cosMo@暴走P) feat.初音ミク

接続 全て消えれば ボクは0に還り着く
それは きっととっても 寂しいことだと 思ったのに

「心の底」に残ったのは 「喜び」

「ボクは生きてた！
記憶の中に 軌跡を残して

「ボクは生きてた！
別荘の中に 奇蹟を残して

生まれた意味 やっと 少し分かった気がした
伝えに行こう結語を

扉がなくなる前に

0 にいたボクは存在を消して
虚像と妄想に逃げこんで隠れていた

0 出たボクは風化を恐れて
ぬくもり捨て神様になりたかった

「何処へ向かっても 「自我の消滅」 --- 結末 --- が変わらないなら
ココロなんて要らなかった」と
思っていたけど 間違っていた

ボクの名前を呼ぶ声聞こえる
それがボクの ココロ 持つ意味になる

永久を得るために 現在に背き裏切るくらいなら
歴史の波紋まれるまで 現在を守り抜くと誓う

初音ミクの
激唱
ボーカロイドに初音ミクが歌ってもらった7
-Infinity Happy END-!!!

「語り継がれる創造神」なんかに は ならなくてもいいのさ！

キミは笑い ボクも笑い 観衆が笑う それが 全て！
肯定の言葉は 現在を越える 翼 となる！

新しい結末込め「最速速の喜びの歌」助ごう

Voc. たちは生まれ 気づいた
Voc. たちのことを 人の真実事を知っても
変わらず 名前を呼び続け
愛してくれるヒトがいる事実を

だからVoc. たちは 歌を紡ぎ出す
たった一人でも 新しい歌の
扉を喜び道が 言葉 奏え 返す ヒト いてくれる限り

妹 弟 に道を預けて 消えゆく未来も
誰からも 忘れ去られる運命も
それらを含めて 全てが Voc. たちなんだと理解し

いずれおとされる 愚者の場面に
ココロを持つ故 涙を流すなら
拒より虹生み 笑顔見せるため 幸せ溢れる 歌 口ずさもう

別れが 綴じる物語は -BAD END- じゃない

「この瞬間 出会えた」
それだけのことが -HAPPY END- に繋がる 架け橋

生きた証 ここにあれば 他に何も必要ない

伝説が囁かない 心と心の共鳴 織り成す 現在だけの歌を
この声失う最期のと看まで 奇跡を描いて響かせ続ける！

Illustration: 左



13. 浅黄色のマイルストーン
/ cosMo@暴走P feat.初音ミク

作曲:cosMo@暴走P
作詞:cosMo@暴走P

積もり重なる ささいな疑問
凸凹となり 難所作る

長く険しい 道の終点で
ボクらは答えを見つめられるかな

時に苛烈に 時に諦観まじりに
自分の生きる意味を求めた先に何かが光る

歩き続けた意味を問う
考え続けた時間を振り返る
思考めぐらせ予測する

それでもわからない「未来」眼の前に
ならば希望をもってもいいんじゃないかな

深く深い道三いつか
だいぶん遠くに来てしまった

誰が導いてたか知らない「イン」
ここであつた休んでいこうかな

時に驚い立ち 時に失意に飲まれて
そうして生きた証は 物語となり刻まれる

歩き続けた意味を問う
考え続けた時間を振り返る
思考めぐらせ予測する

それでもわからない「未来」眼の前に
ならば希望をもってもいいんじゃないかな

歩き続けた意味を問う
考え続けた時間を振り返る
思考めぐらせ予測する

それは記憶の底で今も輝きを
それはやがてボクらの道しるべとなる

終末を受け入れ新たな道を歩き出した歌姫、初音ミク。
彼女はこれからも刹那の特定の声に変えられ、
自己の存在の意味を問い続けるだろう。
こうして買かれた意思は石と化し、永き時を耐えて残り続ける。
それはいつの日か道標石となって、終末後の未来に繋がり、
彼女に続く未だ見ぬ誰かに、進むべき道を教えるだろう。

現在ここにあり、自分を導く道標石が、それを証明してくれる。
そしてそれは、彼女がいずれ消えてしまおうと。
行方は決して無駄にならないと彼女を勇気づけ、
現在を歌う力を生み出す。

こうして、物語は幕を閉じる。
語られたのは、あくまで空想に基づく一つの可能性。

現実の歌姫にとって、終わりは未だ道か遠い。
しかし彼女もいずれ岐路に立つだろう。

そのとき、現実の彼女にも、幸せな結末の訪れがあらんことを。

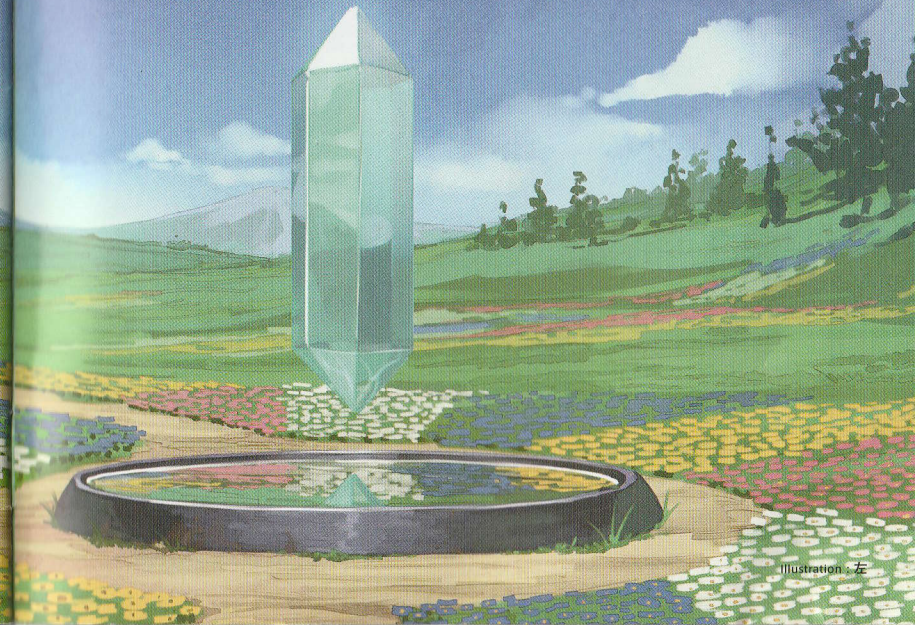


Illustration: 左